

令和4年12月定例会一般質問

通告 2

質問 町民の交通支援について

答弁 公共交通の再編に取り組んでまいります

5 番 佐久間 ふみ子 議員

【質問：佐久間 ふみ子 議員】

5 番、佐久間ふみ子でございます。町民の交通支援について御質問いたします。

日常生活で移動に困難を伴う運転免許返納者や高齢者、妊婦、障がい者など自家用車で移動できない方たちの外出のサポートをどうするか。町内を巡回している路線バスは今のままでは利便性に課題があり、自宅からバス停までの移動が難しい高齢者もいます。



また、郡部の路線バスの利用も非常に搭乗者が少ないと聞いています。これは利便性の問題か、そもそも需要がないのか、こちらも各関係事業者や対象地域の方々と十分に協議し、運行の見直しや利用促進を進めていく必要があるのではないかと考えます。

釧路・根室・十勝管内で、免許を自主返納した65歳以上の高齢者は2017年の1,637人から2019年から2021年は3年連続2,000人を超えるなど増加傾向にあると新聞に掲載されていました。ちなみに中標津管内の運転免許を返納した件数は、令和元年度105件、令和2年度90件、令和3年度75件、本年度は現在で59件です。

一方で、車を手放しては生活していけない現実があり、きめ細やかな交通支援を求める声が聞こえてきます。平成31年4月に、東京池袋で高齢者が運転する車が暴走した事故で親子2人が死亡し、計10人が重軽傷を負ったとマスコミに大きく報道された痛ましい事件がありました。令和元年度以降、高齢者の事故も大きく取り上げられるようになりました。

また、明生町内会に御夫婦で住んでいる方は、昨年5月に御主人を亡くされ、年金受給も1人分となり、通院や外出時などにタクシーを使いたいが経済的に大変だと、これからの生活に不安を抱えている様子でした。足腰に疾患を抱え、翌月に地域包括支援センターとつながり、要支援の認定を受けることができた聞き安心いたしました。

中標津町の高齢化率も令和2年度26.4%で、平成27年から3.6ポイント増加してい

ます。令和 22 年には 35.4%と推定されています。在宅ひとり暮らしの高齢者数も増加傾向にあります。高齢化が進み家庭に引きこもることで、身体機能や認知機能が低下する方が増えることが危惧されています。通院や買い物だけではなく、外出することで地域とつながるきっかけのためにも、移動手段の支援をどうするかは直近の課題です。

白糠町や標津町は免許を返納した高齢者へタクシーやバスの助成を行うなど、町独自の支援策を講じています。

本町も既存の路線バスなどの運行形態の検討、さらにバス会社、タクシー会社の運転手不足の問題などを合わせて、中標津町の住民がどのような交通支援を望んでいるか、調査分析を行った上で進めていく必要があると考えます。

今後の根本的な交通計画とあわせ、住民のバスの利用者増に向けた取り組みを並行して考えるべきだと思います。例えば市街地の巡回バスを通学、通院、買い物など目的別に曜日や時間、始発終点場所などの運行形態を工夫し、既存の車両と人員でできる対策と住民のバス利用促進につながるイベントの開催などを考えてはいかがでしょうか。

町長の見解を伺います。

【答弁：町長】

佐久間議員御質問の町民の交通支援について御答弁申し上げます。

これまで地域の公共交通の重要性やあり方につきまして、御質問や御指摘をいただきてまいりました。この中で町内を運行するバスの便数や形態は、複数自治体で共同運行している路線もあり、非常に複雑な状況でございますが、町民にとって利用しやすく、持続可能で効率的な運行方法につきまして、本年 5 月に設立いたしました中標津町地域公共交通活性化協議会におきまして、検討を進めているところでございます。

公共交通は、利用者である町民のニーズや需要を十分に把握し、運行の見直しを定期的に図りながら再編を行う必要があるとともに、運行していただくバス事業者との連携、そして過大な財政負担にならないよう検討していくことが重要であると考えております。

協議の進捗状況でございますが、中標津町地域公共交通活性化協議会では主に、中標津市内循環線、そして武佐・俣落・養老牛の町有バスを中心に再編の検討を行っております。アドバイザーであります交通専門家の為国氏からは、中標津町の特徴、地域性、道路状況を分析いただき、事務局とともに武佐・俣落・養老牛地区の町民ヒアリングを実施しております。

また、町民 2,000 人へのアンケート調査を 9 月に実施しており、もう間もなく集計作

業も終了いたしますが、12月に予定しております協議会の中で御報告させていただき、議論を進めてまいりたいと考えております。

さらに、より理解を深め課題を共有するため、9月には為国氏による講演会と第2部として参加者との意見交換会、グループ討議を行い、非常に有意義な時間であったとの報告を受けております。

このように公共交通につきましては、さまざまな調査や研究を進める中で、免許返納者へのきめ細やかな交通支援や利用者増につながる取り組みについて、多様な意見やアドバイスも検討をされております。

具体的にはバスの小型化、町有バスの再編において利用者が多い区間への転換、タクシー会社と連携したデマンド輸送、さらには乗車時間の短縮と利用者ニーズに対応する複数系統に分けた輸送体制の構築などであります。

現在検討中ですが、実現性も含めまして、そのメリット、デメリットを十分に比較し、地域公共交通の再編に取り組んでまいりたいと考えております。

また、現在コロナ禍において中止を余儀なくされておりますが、お祭りなどのイベント開催にあわせ、利用促進としてバスを使っただこうということで、無料バス券の配布も順次再開していきたいと考えております。

議員御指摘のとおり、公共交通の再編は利用者実態に即して、実際に実証試験やお試し運行でデータを収集し定期的に見直しを繰り返すことが重要と考えております。利用者の属性や目的などを踏まえた再編を念頭に置き、引き続き取り組んでまいりたいと存じますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。

【質問：佐久間 ふみ子 議員】

5番、佐久間ふみ子でございます。再質問させていただきます。

中標津市内循環線や町有バスを中心にさまざまな調査や研究を進めながら再編の検討をされているとの御答弁をいただきましたが、本町の町内バスの運行については根本的な見直しを期待しながらも、町民の中では、どうせ今までと変わらないでしょうと厳しい御意見もあります。

さらに12月1日から市内循環線バスの7便と8便の2つ、運行が減便されました。

町長は町民にバスを使ってもらうことを本当に考えているのでしょうか。さまざまな理由により、自家用車で移動できない方たちの交通支援を本気で取り組む気持ちはお有りでしょうか。

コロナ禍で厳しい状況も続くと思いますが、町独自の施策を考えていってはいかがで

しょうか。町長のお考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

再質問に御答弁申し上げます。

バスの利用につきましては、やはり利用の実態、もちろんそれからそれにかかる費用とのバランスがございます。残念なことにやっぱり乗らないところも相当運行されていて、よく町民の皆さんから空気を運んでいるんじゃないかという厳しい御意見もいただいているところでございます。

少しでも住民のためになるようにですね、努力してまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。